

施策紹介 「いきいきとしたセカンドライフのために～広島市での取り組み～」

糸山 隆

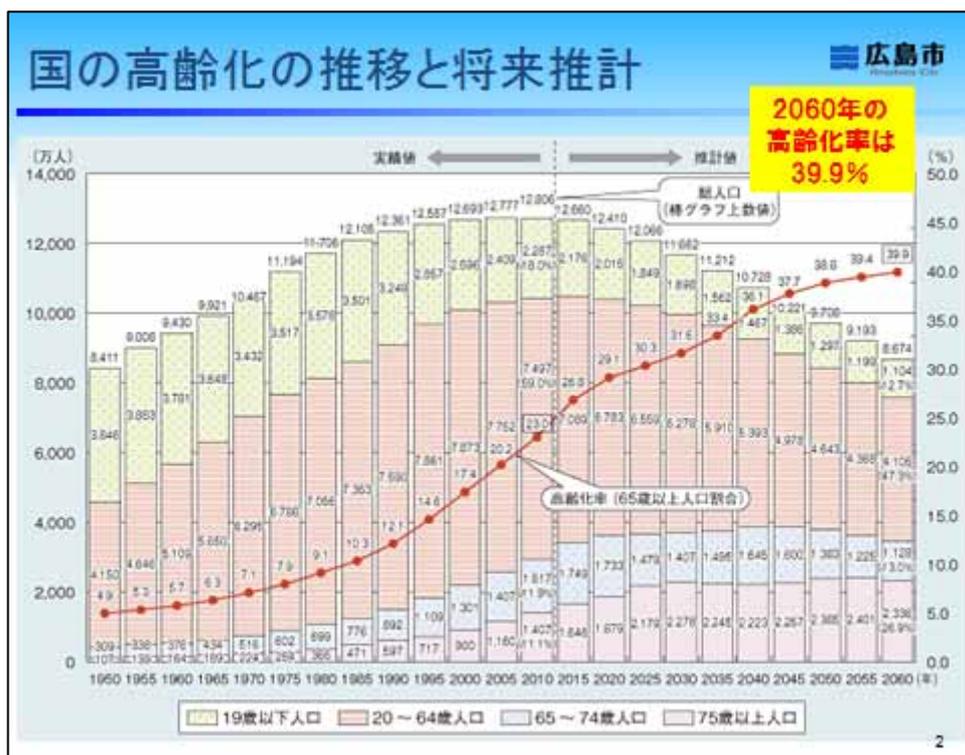
広島市健康福祉局長

今日は、フォーラムのテーマに沿って、特に地域で支え合う活動について何をするか、何ができるかについて、少し幅広く、社会参加のヒントになるような事例、事例あるいは広島市の取り組みをご紹介します、この後のディスカッションのほうに議論をお任せできればと考えております。



○高齢者を取り巻く現状と地域活動への参加状況

内閣府の「高齢社会白書」によれば、2010（平成22）年の全国の高齢化率は23.0%で、人口の4人に1人は高齢者と言われる状態です。そういう中で、20～64歳という主要な納税者に当たる層の割合が縮小し、それに伴って税収は増えていかない状況にあります。実は、広島市でもここ20年間税収入は基本的に同じです。税収がほとんど増えない一方で、高齢者が増えていく状態にあります。



広島市における2010（平成22）年の高齢化率は19.6%と若干全国よりも低いのですが、遅かれ早かれ同じような状況になってきます。なお、広島市の高齢者の中で要支援・要介護認定者は少しずつ増えており、その割合は現在約2割です。



広島市における高齢者の世帯の状況を見ますと、一人暮らしの高齢者は数も割合も増えており、2011（平成23）年では約3万7,000人、約18%です。これに夫婦二人暮らしでともに高齢者の方も合わせますと、その割合は約55%です。これからは、高齢者が増えると同時に、一人暮らしの高齢者や、夫婦二人暮らしでともに高齢者の世帯が増えていきます。先ほど申し上げたような要介護・要支援認定を受けた高齢者が増え、このような高齢者のみの世帯が増える中であって、主要な納税者に当たる層がどんどん減っていきます。国の予算90兆円のうち、半分が税金で、半分が国債、つまり借金です。ですからこれからの借金については今後その割合が減っていく20～64歳の方が負担していかなければならない状態です。行政も厳しい状況ですが、ただ、それでこの先真つ暗かと言え、そうならないようにどうするかというのが今日のテーマにもつながっているのではないかと考えています。